
魔神

hurin

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔神

【Nコード】

N8221U

【作者名】

hurin

【あらすじ】

女オリ主もの。筆者の昔の作品を改造してみようかと。セリカもリウイも幸せになれるように頑張ります。

あと、主人公は原作キャラとくつついたりはしません。

ついでに不定期更新。

0・魔神生誕（前書き）

久しぶりに暇ができたので生存報告がてら。

あと、「お・り・が・み　く神殺しで戦女神な物語」を読んできた、書く意欲が湧いてきたのでw

とってもいい作品ですよ！

0・魔神生誕

デイスナフロディ神権国。それはアバタール大陸の南方に位置する大国である。

デイスナフロディ神権国の中央には、永きに渡り地元の人々が神聖視する霊山が存在する。

その霊山の頂にて、今新たな命が生まれようとしていた。

りん

りん

しゃん

鈴の音。

りん りん しゃん

りん りん しゃん

鈴の音が、聞こえる。霊山の頂上。

響き渡る鈴の音は遙か昔、三神戦争の頃より存在する巨大な大樹より。

りん りん りん りん りん
りん りん りん

重厚な幹、天を突くような樹腕。

その頂点、そこには燃えるように紅い葉が一つ。

りん、りん、りん、りん、りん、りん、りん、りん、
りん、りん、りん、りん、りん、りん

呼び声。鈴の音の呼び声に答えるように天が荒れだす。

雲の間隙を稲妻が走る。

そして、落ちた

雷鳴、のち衝撃。紅き葉が一枚、紫電を纏う。

永きに渡り世界を見守ってきたもの。神を、魔を、人を、眺めてきたもの。

今その落とし子がついに顕現する。

一瞬、世界が光に包まれる。光が収まるとそこには一人の女性がい
た。

長い漆黒の髪。白磁の肌。金の飾り模様の入った、純白のローブ。
何処までも透明な、雰囲気。

閉じられていた目が、開く。燃えるような紅だ。

そして彼女は蔽かに口を開くと呟いた。

「おなか、空いた・・・」

世界樹はなんだかやるせなくなつた（キートン山田）。

1・魔神と交渉（前書き）

魔神視点の話は次回から。

1・魔神と交渉

デイスナフロデー神権国は文字通り神を国主とする国家であるが、その形態は他国と少々異なる。

例えば未だ存在していないが、レウイニア神権国は”水の巫女”を国主としており、その加護のもと王族が政を行っている。しかしデイスナフロデー神権国は神の血筋を持つ”帝”が国主と政を同時に担っているのである。

また帝は儀式的な行事も多く、その最たるものが霊山・スサノオへの参拝である。帝の祖先”産土神・スサノオ”はかつてその霊山の頂上に降臨したとされており、その過酷な道程を越えて頂に立ち、スサノオへの敬意を表するのである。

「という訳です。わかりましたか？紅葉殿くれば」

「なるほど、つまり私のような魔神が急にこの神聖な地に現れたから、警戒したりしなかったりな訳ですね」

「はっきりと警戒してます。帝様は寛大な御方ですので出来るだけ穏便に、との事ですが・・・勿論危険であれば即刻排除するようにとも」

なるほど、と紅葉と呼ばれた魔神は頷いた。そう、この者こそ靈樹の紅一葉より生まれし魔神であり、絶賛監視対象中のときの人？である。

魔神とは呼んで字の通り神の如き力を持った魔に属する者のことだ。その発生、性質は様々だが基本的には自分勝手かつ唯の人間では逆立ちしても勝てないため恐れられている。

そんな紅葉が警戒されつつも交渉を持ちかけられているには幾つか理由がある。

まず第一に紅葉が穏やかな性格をしていたこと。第二に最初に発見した巡礼中の僧（かなりの高位）が彼女を無害認定したこと。最後に彼女が靈樹より生まれたことである。

かの靈樹はスサノオ降臨の時代には既に存在し、かなり神聖視されているのだ。ちなみに現在帝の使いとして来ている男が件の高位僧である。

「まず、巡礼者に手を出さないこと。できるなら彼等が怪我したときなどは助けること。後は貴方が靈樹様より授かったという知識を我等の為に役立てて欲しいこと。以上が帝様から貴方への要求です。どうですか？呑みますか？」

「まあ、その程度なら。幸いにも治癒魔術は得意ですし。ただ靈樹様から授かった知識は靈薬作りが主で、精霊との親和性が低いと扱えませんが。私が作成して提供する形になると思います。」

「ええ、ええ、結構です。では交渉成立ですな」

そこで交渉役の髭を生やした壮年の僧は初めて笑みを浮かべた。それと同時に紅葉は何処かうずうずとした。

「ふふ、待ちきれないようですね。今日はみたらし団子というおやつを持ってきましたよ。どうぞ」

「おお！これが以前仰っていた団子ですか！！こないだの落雁とはまた違う感じですねー」

「お茶の葉も持参しておりますよ。一息入れましょう」

「はい！！」

元気に返事をする紅葉を、子のいない僧は孫を見るような目で見ていた。

そしてこの交渉を帝と紅葉にとっての最高の形にしてみせようとして、改めて胸に決めたのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8221u/>

魔神

2011年10月6日16時30分発行